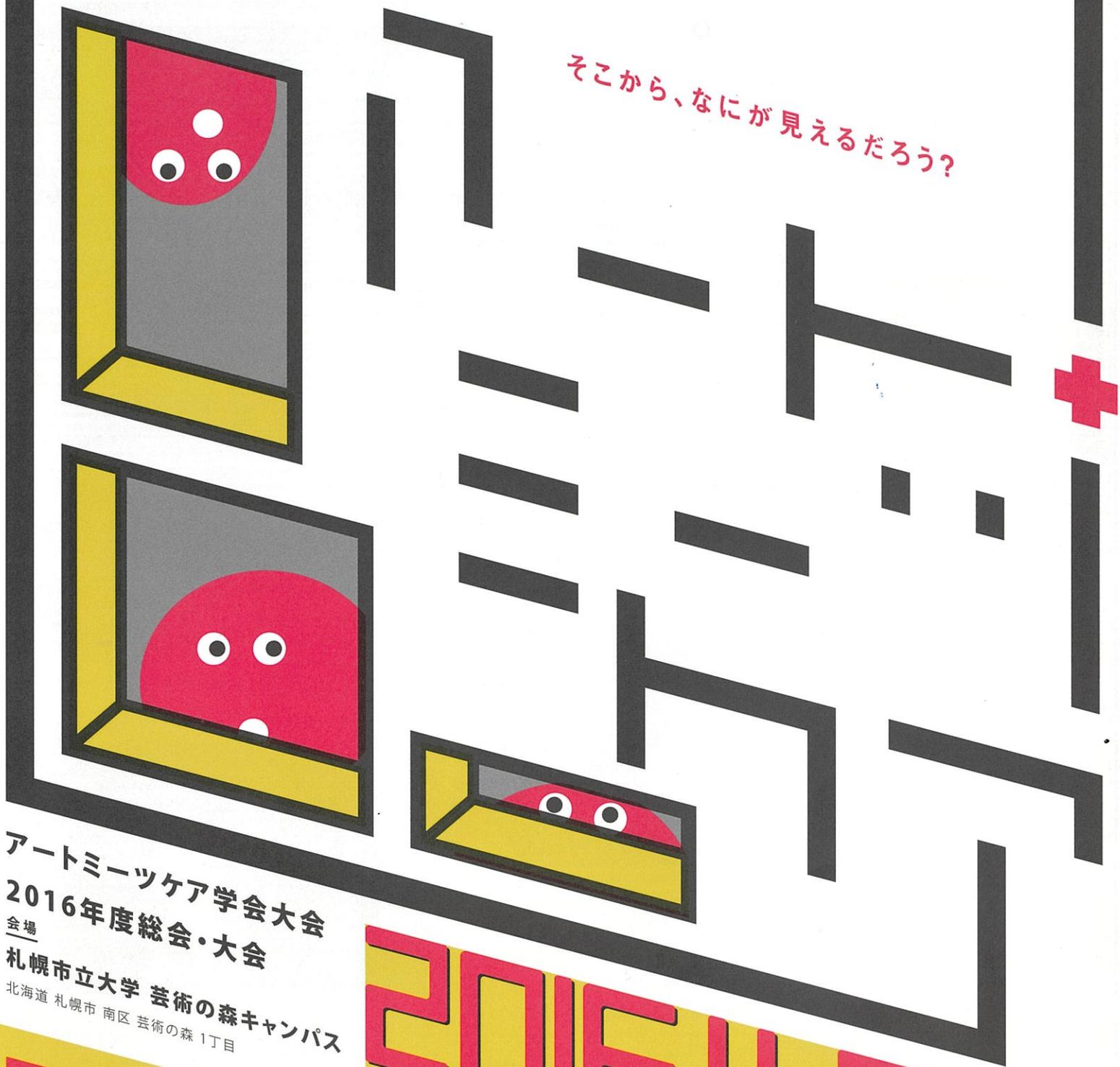


そこから、なにが見えるだろう？



アートミーツケア学会大会
2016年度総会・大会

会場
札幌市立大学 芸術の森キャンパス
北海道 札幌市 南区 芸術の森 1丁目

2016 11.5 Sat.
11.6 Sun.

大会テーマ：風景とラディカルケア

風景とラディカルケア、なんと実験的なテーマでしょう。
学術的には「風景」は景観と区別され、人の意識により創られるものとされています。
つまり、同じ場所に立ちながらも人によって見えるものや見え方は異なるということを意味します。
また、「ラディカル」は急進的などといった意味と同時に根本的な・根っこのといった基礎的な意味をも含んでいます。
これらにより、本テーマは「人それぞれによる見え・あたらしく、本来のケア」という内容を持つことになるのです。
みなそれぞれの経験や価値観が広がる、優しくしておおらかなフィールド。
文化・芸術を中心としたまちづくりを行っている札幌という場、私たちの気持ちを掻き立てるテーマ、
設立10年目の記憶に残る大会になるのではないのでしょうか。

主催：アートミーツケア学会
共催：札幌市立大学、札幌国際芸術祭実行委員会
協力：一般社団法人 北海道チャレンジアート&プロダクツ

開会セレモニー 13:30~14:00
開会挨拶 蓮見孝 (大会長、札幌市立大学 学長)

アイヌ舞踏「チカプウポポ」

札幌アイヌ古式舞踏保存会
Sapporo UPOPO Preservation Society



基調講演 14:20~14:50
「風景とラディカルケア」

山田 良
Ryo Yamada (札幌市立大学 准教授)

一見だけではつながりがイメージしにくい、「風景」と「ケア」。
おまけにラディカルとはどういうことなのでしょう。
作品を紹介しながら、今回の大会テーマを参加者のみなさんと共に共有して
いきたいと思ひます。

オンラインジャーナル特別選奨者発表 14:50~15:10

「大道芸と笑いの体操を組み合わせた『笑い』の
レクリエーションの老人介護施設における実践報告」

田久 朋寛
Tomohiro Takyu (大道芸人)

オンラインジャーナルに掲載された論考の中から、
編集委員が「これは面白い!」と膝を打つようなものに授与される、
オンラインジャーナル特別選奨。初の受賞者がその内容を報告します。



札幌国際芸術祭2017 記念講演
ビデオメッセージ

大友 良英
Yoshihide Otomo
(音楽家 / 札幌国際芸術祭2017 ゲストディレクター)



札幌国際芸術祭 2017 記念講演
講演 15:20~16:20

01
「市民力とアート」

上遠野 敏
Satoshi Katono (札幌市立大学 教授)

「赤帽ハイパーレスキュー六地蔵 一巡礼する地蔵車」
そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014の出品作品。
世界初のお地蔵様自体が巡礼する赤帽車、いつでもどこ
でもお助けに参ります。夕張市清水沢会場から三笠市奔
別会場までの展示会場と炭鉱の関連施設を巡回し
twitterで居場所や出来事をつぶやきます。



02
「音楽とコミュニケーション」

立花 泰彦
Yasuhiko Tachibana (Elc & Wood Bass)



精神障害という診断を下された人たちの多くは、他者と
コミュニケーションをとることが苦手です。一方、音楽の
場合、演奏の現場では常に他者とのコミュニケーション
が飛び交っています。そこで、一つだけルールを決めて
即興演奏をはじめました。そのルールとは「一緒に演奏
している人を見ること」です。今日は、僕がこれまで音楽
の現場で感じてきた、音楽とコミュニケーションに関す
る話を少しします。その後、ひがし町パーカッションア
ンサンブルの演奏をお聴きください。

16:20~16:50
ディスカッション

山田 良、上遠野 敏、立花 泰彦
[コーディネーター] 森口 ゆたか (近畿大学 文芸学部 教授)

大会1日目の前半で報告されるのは、舞踊、建築、アートプロジェ
クト、音楽など、異なる視点による、アートやコミュニケーションの
実践です。ここまでの講演・パフォーマンスをうけて、あらためて今
回の大会テーマ「風景とラディカルケア」に深く迫っていきます!

懇親会 18:00~19:40

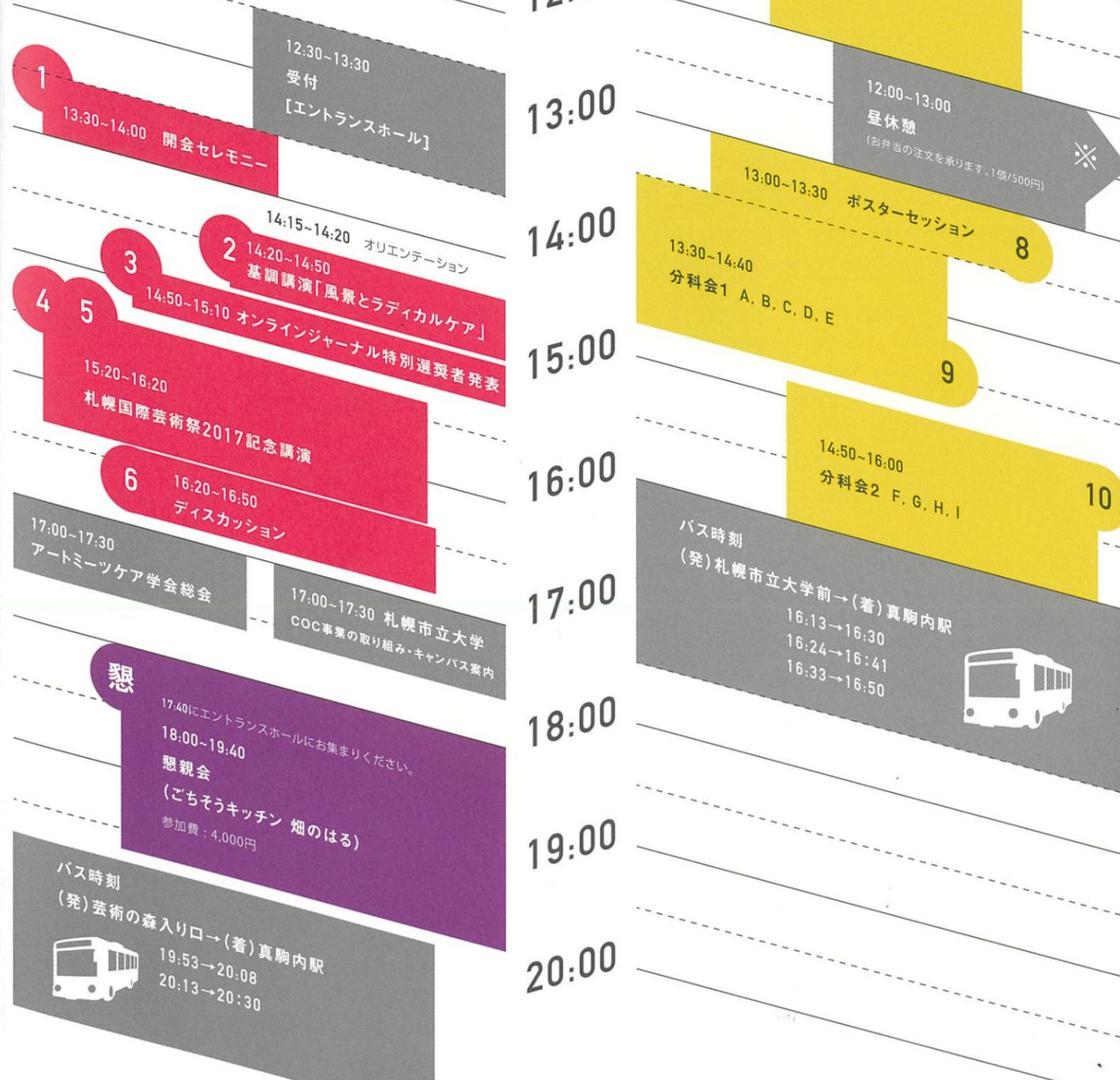
会場: ごちそうキッチン 畑のはる
<http://hatake-no-haru.com>

参加費: 4,000円

旬の野菜をメインにしたお料理を楽しみながら、会員の方も、そ
うでない方も、登壇者も自由に交流する時間です。講演で気にな
ったことを、ここで質問できるかもしれません。
ご参加される方は、ぜひ名刺などをお持ちください!

Time
Table

11.5 Sat. 13:30~19:40



10:00-12:00
プレゼンテーション

13:00-13:30
ポスターセッション(展示発表)

7
8
会員のみなさまによる研究発表や、実践報告を行います。各会場の詳細やタイトルは当日お配りする資料をご覧ください。アートとケアにかんする多様な発表が目白押しです。

分科会は選択制となります。
それぞれ自由に出入りしていただけます。



C 食支援アート看護技術(アート)としての
スプーンテクニックの可視化できるか

田中 靖代 (気の里ナーシングホーム)
村松 真澄 (札幌市立大学)
松永 康佑 (札幌市立大学)

嚥下障害を持つ患者に対しての看護技術としてスプーンテクニックがあります。この技術を伝授するためにこれまで言語や動画を用いてきたが限界がありました。そこでモーションキャプチャーを用いて、技能者の所作を記録、再現することで多角的に動きを捉え、初学者に対する新しい教育教材の可能性について検討します。

分科会 1 13:30-14:40

A 人を人の立場にもどすトポス
ーインクルーシブなコミュニティをめざしてー

宮田 美光 (アートユニオン・オコック)
銀田 ゆみ子 (しゃ〜みん 主宰)
木ノ戸 昌幸 (NPO法人スウィング)

地域が抱える問題に向き合いながら、多様な人がつながる寛容な場が全国でつくられています。ここでは、障害のある人との表現活動や音楽活動の報告とともに、だれもが自分らしく暮らせるような、これからの地域社会のあり方を考えます。各地の取り組みから、現代の日本が抱える閉塞感を突破するヒントが見つかるかもしれません。

D 子どもに限らず
「誰もが一緒に楽しむことができるアート」

小宮 加寿子 (札幌市立大学)
菊地 雅子 (かたるべの森美術館・芸術指導)
松尾 友絵 (札幌市立大学 あそびlab!オヘソ)

近年、障がいのある作家が制作した作品が大きな注目を集めています。アールブリュット活動紹介を中心に、年齢差、障がいの有無に関係なく、だれもが一緒に作品づくりを楽しむためにはどうしたらいいのか、みなさんで考えましょう。会場には2015年2月のアールブリュットフォーラムで実施したワークショップの場を再現します。

B 「能動アート」型
ナースコールワークショップ

三谷 篤史 (札幌市立大学)

ナースコールの機能を持たせたモジュールに、使用者自らが自由に形状や装飾を付加することで、愛着感のあるナースコールを制作するワークショップを実施します。無機質な工業製品であるナースコールと使用者の関係が、能動アートによってどのように変わるのか、体験しながら議論したいと考えています。

E アートとセラピーの間でケアにできること
ーダンス作品「MU」をめぐるー

古賀 弥生 (活水女子大学)
マニシア (ワレワレワークス、ダンスセラピスト)
SHINJI (ダンサー)

映画を見たり劇場や美術館に行ったりして、現実とは異なる世界へ導かれることがあります。このときに引き出される感情はどのように消化されるのでしょうか？統合失調症の息子をもつ母親の経験が投影されたダンス作品を鑑賞したあと、「引き出された」状態の鑑賞者をどのように「ケア」するのか、「ケア」の現場でこの作品を育むことが可能か、考えます。

※左の印のついた分科会のみ

くるまざ
車座 分科会

仕切りのない大空間で各分科会が車座形式で行い、参加者は自由に移動できます。アートミーツケア学会ならではの風景を描き出そうとするラディカルな分科会です。

映像展示
「キュアと美が出会うとき」

前田 憲昭 (医療法人社団皓歯会)
森口 ゆたか (近畿大学文芸学部教授)
岸本 康 (Ufer! Art Documentary)

展示
「北海道障がい者アート展
in 札幌市立大学」

一般社団法人 北海道チャレンジアート & プロダクツ
北海道アール・ブリュット・ネットワーク協議会

分科会 2 14:50-16:00

F スピリチュアルケアとアート

秋田 光彦 (浄土宗大連寺・應院院住職)
坂倉 杏介 (東京都立大学都市生活学部准教授、
三田の家LLP代表)

人間丸ごとを受け容れるケアとしてスピリチュアルケアが関心を集めています。多死社会、単身急増社会に直面する今、死を排除せず、日常の生活の一部としてとらえる試みがあります。生と死をつなぐケアとアートとは何か。医療、宗教、教育など多様な視点からとも考えます。

H ケアの現場におけるアートの可能性

日野間 尋子 (びょういんあーとぶろじえくと)
ブルース・ダーリング (アートと高齢社会研究室)
中田 亜由美 (札幌市立大学)

「医療の場に芸術を」という活動が、日本でも徐々に浸透し各地で広まりを見せています。私たちの健康は、生活環境や自然環境に左右されます。当然ながら、医学的な治療に加え、病院の建物や内部空間は大きな意味を持ちます。ここでは、ケアの場におけるアートが持つ「ここに働きかける力」に注目し、建築、デザイン、看護の視点から国内・海外の事例を考察します。また、札幌での「びょういんあーとぶろじえくと」の取り組みを紹介します。

G ウェルネス・癒しのケアを
デザインの視点から考える

仁田 新一 (日本統合医療学会 理事長)
猪股 千代子 (札幌市立大学)
柿山 浩一郎 (札幌市立大学)

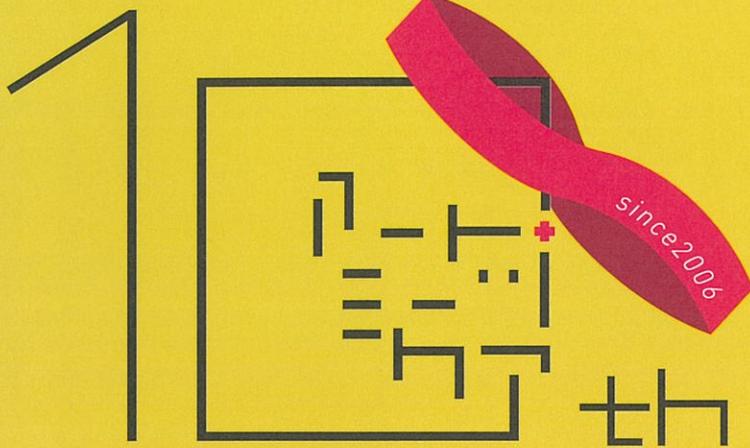
世界と日本のトレンドな統合医療の現状と課題、癒しをめざすアートフルケア・自然治癒力を高める統合医療ケアの実践例や、悲嘆回復過程に寄与するモノづくりの実例など、3人の講師のキートークをもとに、デザインとコラボすることでの可能性や今後の方向性について、参加者と意見交換を行います。

I 多様な経験を生かし合うことはできるか？
ーワークショップをして語り合う会ー

三宅 博子 石橋 鼓太郎
井尻 貴子 長津 結一郎
(NPO法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所)

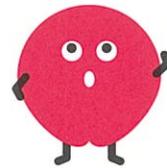
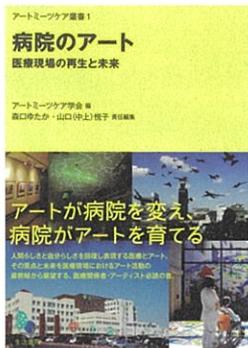
障害当事者が抱える「孤立」という問題の背景には、その人の体験が他者と共有されなかったり、聞く耳をもたれなかったりすることにあるのではないのでしょうか。本研究所ではアクションリサーチを行い、個人の体験や経験を自然なかたちで他者と共有できるようなワークショップの開発を目指しました。これまでの進捗過程の報告とともに、開発したワークショップを参加者のみなさんと試してみます。

※ 昼食について
大会会場周辺は飲食店がありません(コンビニ1件のみ)。
学食も営業していませんので、大会事務局で用意するお弁当の申し込みをおすすめ致します。
(事前申し込み以外の方はご用意できません。裏面の申し込み用紙をご覧ください。)



ANNIVERSARY 2006 → 2016

2006年3月、アートミーツケア学会が発足しました。
会員のみならず、多くの方にご参加いただき、
10年の節目を迎えることができました。
「学会らしくない学会」を合言葉に、これからも活動を固定化せず、
次の10年もまた、みなさまとともに拓いていきたいと思ひます。
ご意見ご要望など、お気軽にお寄せください。



アートミーツケア叢書
<生きること>に共通の根をもつアートとケア。
多様な場で実践と研究を積み重ねる人びとが領域を横断して手を取りあい、
この二つを分け隔てている制度や既成の概念を問い直し、
アートと社会の再生を願う全5巻のシリーズです。
これまで、
第1巻「病院のアートー医療現場の再生と未来」
第2巻「生と死をつなぐケアとアートー分かたれた者たちの共生のために」
を発行。

アートミーツケア学会の取り組み

アートとケアに関する調査研究の推進
「医療とアート」
「高齢者とアート」
「障害と創造性」
「アート・テクノロジー・ケア」
など、アートとケアに関する調査研究を推進します。

大会の開催
講演や学会員による発表など、
議論の場、会員相互の情報交換の場、交流の場
として年1回行います。

オンラインジャーナルの発行
アートとケアに関する論文(査読付き)、実践報告、研究ノートを発行します。
実践を言語化するツールとしてご活用ください。
2014年には、アートミーツケア特別選奨を新設。
アカデミックな書き方ではない論考も歓迎です。
新たな表現をお待ちしています。

ニュースレターの発行
日本や海外における新しい情報を掲載。
会員の方をおひとりずつ紹介するコーナー「アートミーツケア数珠つなぎ」に
登場される方を募集しています。自薦・他薦問いません。情報をお寄せください!

フォーラム・シンポジウムの開催
特定のテーマや、タイムリーな課題についてのフォーラムやシンポジウムを開催します。

プログラムの開発・プロジェクトの実施
ケアの現場へのアーティストの派遣、アート作品の導入、プログラムの開発などを推進します。

国際交流の推進
アートとケアに携わる団体との共同研究や、情報交換、交流事業を実施します。
アートとケアに関する国際的なネットワークの形成をめざします。

青空委員会
会員参加による研究や共同のプロジェクトが推進されることをめざし、
プロジェクトの企画・運営を行うための委員会。
委員会は固定的なものではなく、会員からの発起により随時立ち上げることが可能です。

役員

- 【会長】鷺田清一(京都市立芸術大学理事長・学長、せんだいメディアテーク館長)
- 【副会長】中川真(大阪市立大学大学院文学研究科教授)、森口ゆたか(美術家、近畿大学文芸学部文化デザイン学科教授)
- 【常務理事】播磨靖夫(一般財団法人たんぼの家の理事長)
- 【理事】秋田光彦(浄土宗大蓮寺・應典院住職)、奥村伸二(社会医療法人同仁会耳原総合病院 病院長)、坂倉杏介(東京都立大学都市生活学部准教授、三田の家LLP代表)、杉林英彦(愛知教育大学准教授)、
鈴木理恵子(女子美術大学准教授)、関口怜子(ハート&アート空間ピーアイ代表)、ダーリング・ブルース(美術史家)、高橋伸行(アーティスト、やさしい美術プロジェクトディレクター)
銅金裕司(メディアアーティスト、京都造形芸術大学教授)、並河恵美子(認定NPO法人芸術資源開発機構代表理事長)、野津亮(大阪府立大学大学院工学研究科准教授)、日野陽子(京都教育大学准教授)、
本間直樹(大阪大学COデザインセンター 准教授)、水野哲雄(京都造形芸術大学名誉教授)、見寺貞子(神戸芸術工科大学教授)、三輪敬之(早稲田大学創造理工学部教授)、
山口悦子(大阪市立大学大学院医学研究科医療安全管理学准教授)、横川善正(金沢美術工芸大学名誉教授)
- 【監事】田中みわ子(東日本国際大学准教授)、柊伸江(株式会社ダブディビ・デザイン代表取締役)

参加申し込み方法

1. 受付申し込みフォームにご記入のうえ、学会事務局まで、E-mail、または Faxにてお申し込みください。ウェブ上でも受け付けております。
2. 参加費(懇親会費含む)をご入金ください。郵便局の郵便振替をご利用ください。振込手数料はご負担願います。振り込み用紙の受領証をもって領収証にかえさせていただきます。通信欄に「振込内容(内訳)」をご記入ください。
口座記号・番号 00920-4-252135
加入者名 アートミーツケア学会
3. お申し込み完了となります。

参加費

1. 道外よりご参加のみなさま

参加費	一般(学会員)	学生(学会員)
両日	4,000円(2,000円)	2,000円(1,000円)
懇親会費	(11月5日夜)4,000円	

2. 道内にて在勤、在学、在住のみなさま

参加費	一般	学生
両日	2,000円	1,000円
懇親会費	(11月5日夜)4,000円	

申し込み期限 2016年10月25日(火)

1. 定員200人になり次第、締め切らせていただきます。
2. 一旦ご入金いただいた参加費は、原則としてご返金いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

お申し込み／お問い合わせ先

アートミーツケア学会 事務局
〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 一般財団法人たんぼぼの家の内
Tel.0742-43-7055 Fax.0742-49-5501
E-mail.art-care@popo.or.jp
URL.http://artmeetscare.org/

アクセス



会場までのアクセス:

JR札幌駅から地下鉄南北線・真駒内行きに乗車(約17分)

真駒内駅から2番のりば発の中央バスに乗車(約12分)

「札幌市立大学前」下車。徒歩3分。

大会会場へは公共交通機関をご利用ください。

スクールバス等は運行していません。

会場: 札幌市立大学 芸術の森キャンパス

北海道 札幌市 南区 芸術の森 1丁目

011-592-2762(大会事務局)

参加申し込みフォーム | E-mail : art-care@popo.or.jp Fax : 0742-49-5501

必要事項をご記入の上、該当する項目にチェックを入れて下さい。

※お預かりした個人情報は、本大会の受付及び今後の学会活動に関するご案内のために使用致します。

[ふりがな]

お名前

住所 (□ご自宅/□勤務先)

〒

連絡先 Tel.(□ご自宅/□勤務先)

Fax.(□ご自宅/□勤務先)

E-mail.(□ご自宅/□勤務先)

懇親会 参加費 ¥4000 (参加費と同時に振込ください)

参加 / 不参加

お弁当 ¥500 (当日会場にてお支払いください)

希望する / 希望しない